

[論文]

保育学生の乳幼児期と児童期における造形表現のイメージに関する研究

第一報

—保育実習を通じた学びのイメージの変容に着目して—

小口 偉
浅井拓久也 鳥海弘子

First Report of Study on Image of the Art
Representation in the Infants Period and the Childhood of the Childcare Student
—Focusing on the Transformation of the Image of the Learning Through the Nursery School
Practical Training—

Suguru Oguchi Takuya Asai Hiroko Toriumi

キーワード：造形表現、保育実習、幼保小連携

Key Words : art representation, nursery school practical training, cooperation
between preschool and nursery school and elementary schools

要約：本研究の目的は学生が持つ保育における造形表現のイメージが2回の保育実習を通して、どのように変容していくかをアンケート調査から明らかにすることで保育実習指導の充実を図ることにある。しかし保育所での実習が1度しか行えなかったため、本稿では1度目のアンケートから学生の学びの現状を明らかにした。学生が持つ造形表現の活動イメージから、乳幼児の子ども育ちの大きな流れを把握できているが、児童期への成長の流れを理解した上で幼児期を捉えるということについての意識はあまりないことが明らかとなった。

Abstract (English) : The purpose of this study is to plan enhancement of the childcare training instruction by clarifying how an image of the art representation in the childcare that a student has transforms it through two times of nursery school practical training from questionnaire survey. However, I clarified the current situation of the student from the first questionnaire in this report because students were able to perform the training in the nursery school only once. From an activity image of the art representation, it could grasp a big flow of the growth of the child of infants, but it became clear that is little consciousness about catching the infancy after having understood a flow of the growth to childhood.

1. はじめに

本研究の目的は、保育士を目指す短期大学生が、保育実習で目の当たりにする実際の保育現場での造形表現の活動と計画の理解の内容を明らかにすることで、学生の学びについて確認し実習事前事後指導の内容充実を図るものである。

保育所実習では部分実習や責任実習において造形表現を中心とした製作活動を取り入れる学生がいることから、筆者らが担当する保育実習の事前指導においてもきめ細かい指導が必要だと考える。特に保育所を利用する子どもの年齢は0～6歳であり、著しい身体機能の発達が見られる時期でもある。単なる活動指導を超えた子ども理解や活動内容理解が必要であるがゆえ、調査の対象を保育実習として限定している。

2018年改定の「保育所保育指針」(以下、指針)では5領域に基づいた保育により、子どもの育ちを幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」として示した。文部科学省「幼児教育部会における審議の取りまとめ」では「10の姿」の造形表現と関連深い「豊かな感性と表現」について、「みずみずしい感性を基に、生活の中で心動かす出来事に触れ、感じたことや思い巡らしたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりして、表現する喜びを味わい、意欲が高まるようになる。」と説明し、保育所保育指針解説においても「子どもは、生活の中で心を動かす出来事に触れ、みずみずしい感性を基に、思いを巡らせ、様々な表現を楽しむようになる。」とした。また、指針においては小学校との連携や接続のことについても触れられている。『「保育所保育指針」第2章、4、(2)小学校との連携』のAに、「保育所においては、保育所保育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることを配慮し、幼児期にふさわしい生活を通じて創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を養うようにすること。」とある。保育者は乳幼児期ばかりではなく、児童期の子どもたちの生活や学習へも関心をよせることが望まれている。

さらに、現場での表現教育は、「表現の仕方指導」というよりは、表現は生活や遊びの中で育まれるものが望ましい。「指針」第2章2(2)オでの(イ)⑥「生活や遊びの中で、興味のあることや経験したことなどを自分なりに表現する。」や、同(ウ)①「子どもの表現は、遊びや生活の様々な場面で表出されているものであることから、それらを積極的に受け止め、様々な表現の仕方や感性を豊かにする経験となるようにすること。」とあり、保育者の一方向的な表現技術獲得のための画一的な方法での指導を求めているのではない。また保育所を利用する子どもの年齢に合わせた幅の広い造形的活動となるが、それに加え児童期の発達についても関心をもたなければならぬ。そのような中で、保育学生は、「造形表現活動の実際はどのようなものなのか」、「実際の計画や活動はどのように進めているのか」を知る機会を実習が主なものとなるであろう。言い換えると、実習でしか深まらない学びがあると考え。そこで保育所実習において実際の現場をみて、保育学生が持つ保育所での造形表現についての全体的なイメージ、または指導法のイメージが保育実習をすることでどのように変容していくのかを調査する。その結果を踏まえ今後の学生指導の充実を図っていきたいと考える。

なお令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から本学は保育実習Ⅱを中止とし学内代替実習とした。その関係で、本来であれば保育実習Ⅱの後、アンケート調査を行いデータ収集し実習を通じたイメージの変容について着目していく予定であったが、保育実習Ⅰのアンケート調査しか行うことができなかった。そのため今後は継続的に実習前後で調査を行う予定である。よって本稿は保育実習Ⅰ終了後の学生の現状把握とする第一報とした。

2 研究方法

(1) 調査対象・時期、調査項目

本研究の調査対象者は、秋草学園短期大学幼児教育学科の2年生(一部)、3年生(二部)とした。調査は、2020年5月7日の「保育所実習指導Ⅱ」の授業で行った。調査方法は、グーグルフォームを用いて質問紙調査を実施した。

調査項目は以下の通りである。

「1、乳幼児期、児童期の造形表現の活動に使用する教材を8つ程度書き出してください。」

「2、設問1で書き出した教材のうち1つ以上を使って乳児期の子どもと活動するとしたらどのような内容が考えられますか。(注:次の質問では、幼児期や児童期の子どもについて回答してもらいますので、ここでは乳児期の子どもについてだけ回答してください。)」

「3、上の質問で書き出した活動内容は、実習や実習事前指導などの授業を通して学んだことですか。」(はい、いいえ)

「4、上の質問で「いいえ」を選択した方だけ回答してください。活動内容はどこで学んだものですか。1つだけマークしてください。」(参考書や保育誌、アプリやインターネットの情報、短大入学前までの経験や学び、その他)

「5、設問1で書き出した教材のうち1つ以上を使って幼児期の子どもと活動するとしたらどのような内容が考えられますか。(注:次の質問では、児童期の子どもについて回答してもらいますので、ここでは幼児期の子どもについてだけ回答してください。)」

「6、上の質問で書き出した活動内容は、実習や実習事前指導などの授業を通して学んだことですか。」(はい、いいえ)

「7、上の質問で「いいえ」を選択した方だけ回答してください。活動内容はどこで学んだものですか。1つだけマークしてください。」(参考書や保育誌、アプリやインターネットの情報、短大入学前までの経験や学び、その他)

「8、設問1で書き出した教材のうち1つ以上を使って児童期の子どもと活動するとしたらどのような内容が考えられますか。」

「9、上の質問で書き出した活動内容は、実習や実習事前指導などの授業を通して学んだことですか。」(はい、いいえ)

「10、上の質問で「いいえ」を選択した方だけ回答してください。活動内容はどこで学んだものですか。1つだけマークしてください。」(参考書や保育誌、アプリやインターネットの情報、短大入学前までの経験や学び、その他)

「11、実習で実際の子どもの活動を目の当たりにすることで、子どもへの指導方法や関わり方への理解が深まりましたか。1つだけマークしてください。」(大変深まった、深まった、あまり深まらなかった、まったく深まらなかった、どちらでもない)

「12、造形表現を通して子どもに期待する姿はどのようなものですか。次から1つ選んでください。1つだけマ

ークしてください。)(他の人よりも上手に、かいたりつくったりすることができる。自分の思うままに、かいたりつくったりすることができる。人の意見を聞かなくても、かいたりつくったりすることができる。言われたことを言われたようにやることができる。その他)

「13、造形表現において、乳児期の子どもの育ちに関連があると思うことを100字程度で書いてください。(注: 次の質問では、幼児期や児童期の子どもについて回答してもらいますので、ここでは乳児期の子どもについてだけ回答してください。)」

「14、造形表現において、幼児期の子どもの育ちに関連があると思うことを100字程度で書いてください。(注: 次の質問では、児童期の子どもについて回答してもらいますので、ここでは幼児期の子どもについてだけ回答してください。)」

「15、造形表現において、児童期の子どもの育ちに関連があると思うことを100字程度で書いてください。」

(調査項目の「教材」は、学生が「素材」と「材料」の意味の違いを正確に理解することは困難であり、保育者でも両語の意味や違いについて曖昧に捉えている可能性があることから、「素材」「材料」「道具」をまとめたものとして「教材」という語を用いた。)

(2) 分析方法

調査項目1、2、5、8、12、13、14、15では「学生が持つ造形表現のイメージと子ども育ちとの関わりのイメージ」を、調査項目3、4、6、7、9、10、11では「学生が持つ造形表現のイメージと実習、実習事前指導などの授業の関係」について問うたものである。

回答の特徴を明らかにするために、調査項目2、5、8、13、14、15では、KH Coder を用いて頻出語を抽出した。抽出では、名詞及びそれに相当する語に限定した。なぜなら、回答を概観すると、調査の内容から作る、する、のような言葉が多く含まれており、回答の傾向を把握することが困難であるからである。また、名詞及びそれに相当する語は内容(内実)を表すものであることから、回答の特徴を明らかにしやすいと判断したからである。また同調査項目では作る、切る、折る、貼る、のような動詞と頻出名詞との関連性から、学生が持つ造形活動と子どもの育ちの関係性のイメージを捉えることができるのではないかと考えた。そこで動詞を含めた頻出語を合わせて抽出し共起ネットワーク図で示すことで、学生が考える具体的な活動内容の傾向を俯瞰し、造形表現と子どもの育ちの関係についての学生のイメージを探った。

(2) 倫理的配慮

本研究は秋草学園短期大学「人を対象とする研究倫理」規程による承認を得て実施した(承認番号: 2019-22)。

3 結果と考察

上で示した調査を実施したところ、授業参加者は175名、得られた回答は136名であった(77.7%)。

(1) アンケート結果

調査項目1、「乳幼児期、児童期の造形表現の活動に使用する教材を8つ程度書き出してください。)(回答数3以上)

| 教材 | 回答数 | 教材 | 回答数 | 教材 | 回答数 |
|----|-----|----|-----|----|-----|
|----|-----|----|-----|----|-----|

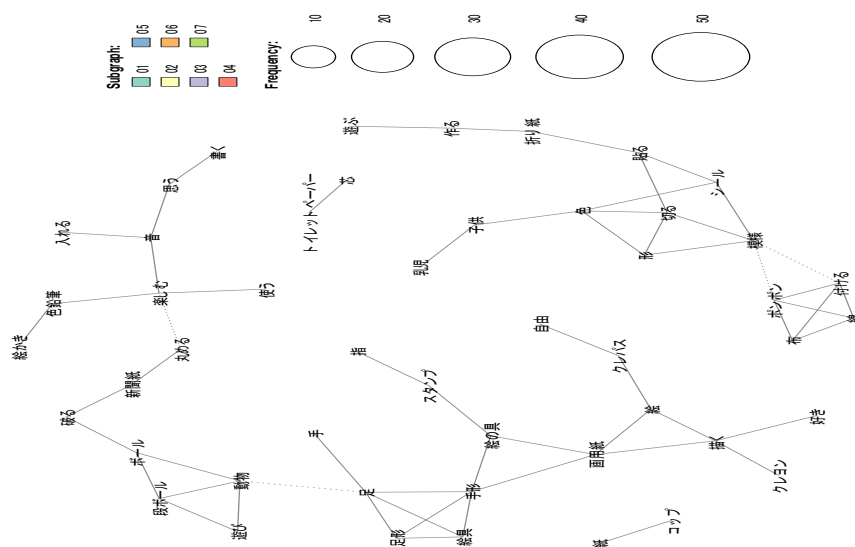
| | | | | | |
|----------------------|-----|-------------|----|--------|----|
| クレヨン | 106 | 色鉛筆 | 24 | ステープラー | 10 |
| 画用紙 | 97 | ペットボトル | 21 | 色画用紙 | 9 |
| 折り紙 | 91 | 空き箱・空き容器・廃材 | 21 | クーピー | 8 |
| 絵の具 | 88 | 牛乳パック・紙パック | 20 | 鉛筆 | 6 |
| はさみ | 83 | ストロー | 18 | ビーズ | 5 |
| 新聞紙 | 79 | マーカー | 17 | フェルト | 5 |
| のり | 73 | 廃材 | 15 | ボンド | 3 |
| テープ類(セロハンテープ, ガムテープ) | 44 | 紙皿 | 15 | 絵本 | 3 |
| 粘土 | 40 | ポリ袋・ビニール袋 | 15 | 糸 | 3 |
| 紙コップ | 26 | シール | 14 | 模造紙 | 3 |
| トイレットペーパーの芯 | 26 | 割り箸 | 11 | | |
| ダンボール | 25 | ティッシュ | 10 | | |

(表 1)

調査項目 2「設問 1 で書き出した教材のうち 1 つ以上を使って乳児期の子どもと活動するとしたらどのような内容が考えられますか。(注: 次の質問では、幼児期や児童期の子どもについて回答してもらいますので、ここでは乳児期の子どもについてだけ回答してください。)」(出現回数 5 以上)

| 抽出語 | 出現回数 | 抽出語 | 出現回数 | 抽出語 | 出現回数 |
|------|------|------|------|-----------|------|
| 画用紙 | 57 | スタンプ | 10 | 乳児 | 6 |
| 新聞紙 | 44 | 指 | 10 | コップ | 5 |
| 手型 | 33 | シール | 9 | トイレットペーパー | 5 |
| 絵の具 | 29 | 足型 | 12 | 段ボール | 6 |
| クレヨン | 29 | 色 | 9 | 子供 | 5 |
| 絵 | 25 | 模様 | 8 | 色鉛筆 | 5 |
| 折り紙 | 20 | 遊び | 8 | 芯 | 5 |
| 手型 | 15 | ボール | 7 | 動物 | 5 |
| 活動 | 14 | 音 | 7 | 布 | 5 |
| 紙 | 14 | お絵かき | 7 | 綿 | 5 |

(表 2)



(図1)

調査項目3、「上の質問で書き出した活動内容は、実習や実習事前指導などの授業を通して学んだことですか。」(はい、いいえ)

| | |
|-----|----------|
| はい | 89 (65%) |
| いいえ | 47 (35%) |

(表3)

調査項目4、上の質問で「いいえ」を選択した方だけ回答してください。活動内容はどこで学んだものですか。1つだけマークしてください。(参考書や保育誌、アプリやインターネットの情報、短大入学前までの経験や学び、その他)

| どこで学んだものか | 回答数(回答率) |
|---------------------------------------|---|
| 参考書や保育誌 | 15 (31%) |
| アプリやインターネットの情報 | 12 (25%) |
| 短大入学前までの経験や学び | 5 (11%) |
| その他(アルバイト、ボランティア先の保育園で学んだ、自分の考え、他の授業) | 16 (34%) 内訳: 8 (17%), 4 (8%), 4 (8%) |

(表4)

調査項目5、設問1で書き出した教材のうち1つ以上を使って幼児期の子どもと活動するとしたらどのような内容が考えられますか。(注: 次の質問では、児童期の子どもについて回答してもらいますので、ここでは幼児期の子どもについてだけ回答してください。)(出現回数5以上)

| 抽出語 | 出現回数 | 抽出語 | 出現回数 | 抽出語 | 出現回数 |
|-----|------|------|------|---------|------|
| 画用紙 | 59 | 紙コップ | 12 | ドングリ | 6 |
| 絵 | 35 | 活動 | 11 | 新聞紙のプール | 6 |

| | | | | | |
|-------------|----|-------|----|-----|---|
| クレヨン | 34 | ハサミ | 11 | 紙皿 | 6 |
| 絵の具 | 34 | 自分 | 9 | 模様 | 5 |
| 新聞紙 | 32 | 形 | 8 | 子ども | 5 |
| 折り紙 | 29 | 表現 | 7 | 魚 | 5 |
| 色 | 16 | 箱 | 7 | 外 | 5 |
| トイレットペーパーの芯 | 15 | 音 | 7 | ペン | 5 |
| 製作 | 15 | ダンボール | 7 | けん玉 | 5 |
| 季節 | 12 | 自由 | 6 | | |

(表5)

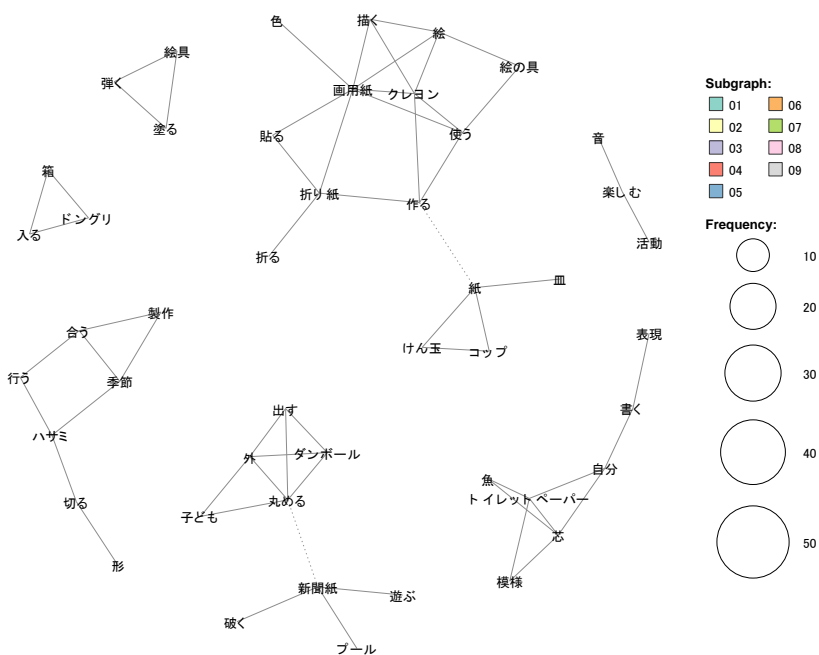


図2

調査項目6、「上の質問で書き出した活動内容は、実習や実習事前指導などの授業を通して学んだことですか。」(はい、いいえ)

| | |
|-----|----------|
| はい | 93 (69%) |
| いいえ | 42 (31%) |

(表6)

調査項目7、上の質問で「いいえ」を選択した方だけ回答してください。活動内容はどこで学んだものですか。1つだけマークしてください。」(参考書や保育誌、アプリやインターネットの情報、短大入学前までの経験や学び、その他)

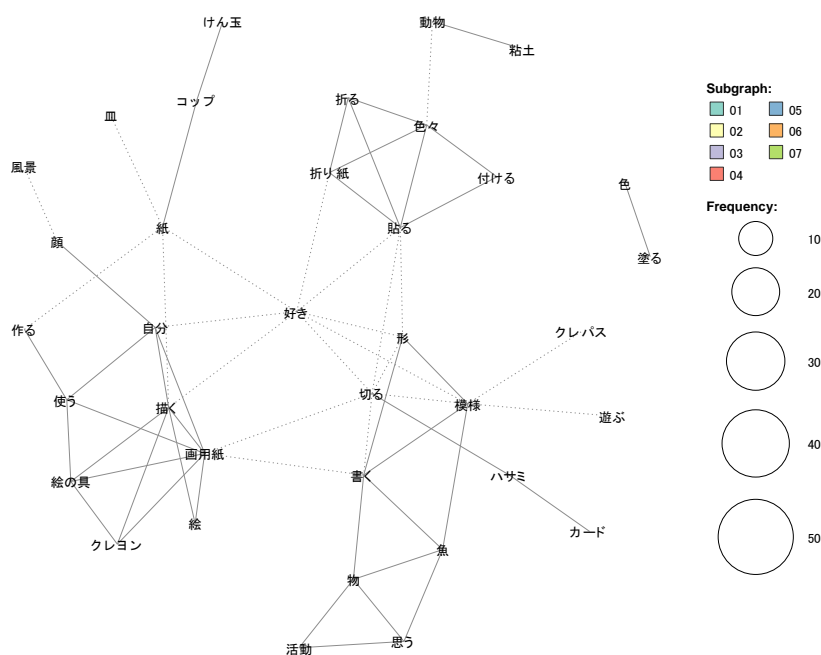
| どこで学んだものか | 回答数(回答率) |
|------------------------|---------------------------------------|
| 参考書や保育誌 | 14 (33%) |
| アプリやインターネットの情報 | 14 (33%) |
| 短大入学前までの経験や学び | 3 (7%) |
| その他(アルバイト先、他の授業、自分の考え) | 11 (27%) 内訳: 5 (12%), 4 (10%), 2 (5%) |

(表7)

調査項目8、設問1で書き出した教材のうち1つ以上を使って児童期の子どもと活動するとしたらどのような内容が考えられますか。(出現回数5以上)

| 抽出語 | 出現回数 | 抽出語 | 出現回数 | 抽出語 | 出現回数 |
|------|------|-----|------|--------|------|
| 画用紙 | 42 | 紙 | 10 | カード | 6 |
| 絵の具 | 32 | 動物 | 9 | ストロー | 6 |
| 自分 | 25 | 顔 | 8 | 色々 | 6 |
| 絵 | 24 | 色 | 8 | 製作 | 6 |
| 折り紙 | 24 | 模様 | 8 | 遊び | 6 |
| 好き | 23 | テープ | 7 | ペットボトル | 5 |
| クレヨン | 20 | ハサミ | 7 | 牛乳パック | 5 |
| 活動 | 17 | 魚 | 7 | 紙皿 | 5 |
| 新聞紙 | 17 | 粘土 | 7 | 廃材 | 5 |
| 紙コップ | 11 | 物 | 7 | 風景 | 5 |
| 形 | 11 | けん玉 | 6 | | |

(表8)



(図3)

調査項目9、「上の質問で書き出した活動内容は、実習や実習事前指導などの授業を通して学んだことですか。」(はい、いいえ)

| | |
|-----|----------|
| はい | 60 (44%) |
| いいえ | 75 (56%) |

(表9)

調査項目 10、上の質問で「いいえ」を選択した方だけ回答してください。活動内容はどこで学んだものですか。1つだ

けマークしてください。)(参考書や保育誌、アプリやインターネットの情報、短大入学前までの経験や学び、その他)

| どこで学んだものか | 回答数(回答率) |
|---------------------------------|--|
| 参考書や保育誌 | 7 (9%) |
| アプリやインターネットの情報 | 19 (25%) |
| 短大入学前までの経験や学び | 40 (54%) |
| その他(自分の考え、造形表現の授業、他大学の授業、短大の授業) | 9 (12%) 内訳 6 (8%),1 (1%),1 (1%),1 (1%) |

(表 10)

調査項目 11、「実習で実際の子どもの活動を目の当たりにすることで、子どもへの指導方法や関わり方への理解が深まりましたか。1つだけマークしてください。)(大変深まった、深まった、あまり深まらなかった、まったく深まらなかった、どちらでもない)

| | |
|------------|----------|
| 大変深まった | 56 (41%) |
| 深まった | 75 (55%) |
| どちらでもない | 3 (2%) |
| あまり深まらなかった | 2 (2%) |

(表 11)

調査項目 12、「造形表現を通して子どもに期待する姿はどのようなものですか。次から1つ選んでください。1つだけマークしてください。)(他の人よりも上手に、かいたりつくったりすることができる。自分の思うままに、かいたりつくったりすることができる。人の意見を聞かなくても、かいたりつくったりすることができる。言われたことを言われたようにやることことができる。その他)

| | |
|--------------------------------|-----------|
| 自分の思うままに、かいたりつくったりすることができる。 | 133 (98%) |
| 人の意見を聞かなくても、かいたりつくったりすることができる。 | 3 (2%) |

(表 12)

調査項目 13、「造形表現において、乳児期の子どもの育ちに関連があると思うことを100字程度で書いてください。

(注:次の質問では、幼児期や児童期の子どもについて回答してもらいますので、ここでは乳児期の子どもについてだけ回答してください。)(出現回数10以上)

| 抽出語 | 出現回数 | 抽出語 | 出現回数 | 抽出語 | 出現回数 |
|-----|------|------|------|-----|------|
| 表現 | 73 | 物 | 21 | 気持ち | 12 |
| 乳児 | 69 | 絵 | 18 | 形 | 12 |
| 造形 | 53 | クレヨン | 21 | 紙 | 12 |
| 自分 | 48 | 好き | 16 | 様々 | 12 |
| 子ども | 43 | 手先 | 15 | 玩具 | 11 |
| 活動 | 38 | 道具 | 15 | 作業 | 11 |
| 興味 | 36 | 音 | 14 | 色 | 11 |
| 発達 | 36 | 感触 | 14 | 新聞紙 | 11 |
| 手 | 33 | 関連 | 14 | 製作 | 11 |

| | | | | | |
|----|----|----|----|-----|----|
| 指先 | 27 | 保育 | 14 | 遊び | 11 |
| 感覚 | 26 | 色々 | 13 | 画用紙 | 10 |
| 大切 | 25 | 育ち | 12 | 体験 | 10 |
| 素材 | 21 | 環境 | 12 | | |

(表 13)

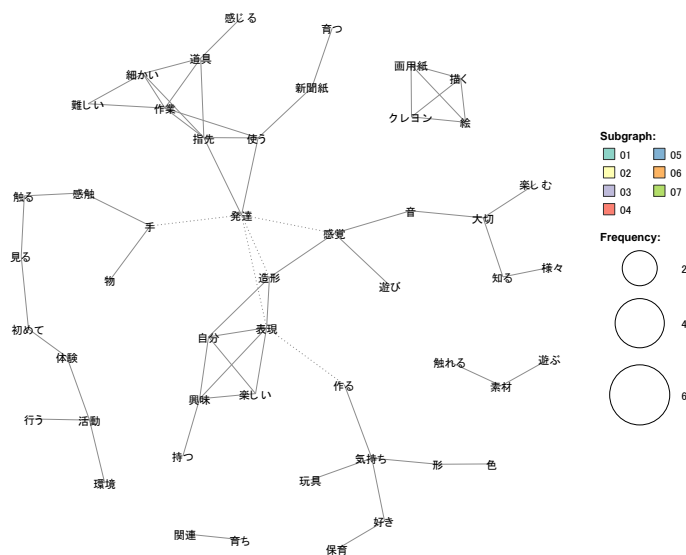


図4

調査項目 14、「造形表現において、幼児期の子どもへの育ちに関連があると思うことを100字程度で書いてください。

(注: 次の質問では、児童期の子どもについて回答してもらいますので、ここでは幼児期の子どもについてだけ回答してください。)(出現回数10以上)

| 抽出語 | 出現回数 | 抽出語 | 出現回数 | 抽出語 | 出現回数 |
|------|------|-----|------|-----|------|
| 自分 | 116 | 保育 | 19 | 乳児 | 13 |
| 表現 | 110 | 関係 | 17 | 絵 | 12 |
| 幼児 | 64 | 道具 | 17 | 指先 | 12 |
| 造形 | 52 | 製作 | 16 | 手先 | 12 |
| 子ども | 42 | 色 | 15 | 創造 | 12 |
| 発達 | 28 | 様々 | 15 | 成長 | 11 |
| 想像 | 27 | 関連 | 14 | 育ち | 10 |
| 友達 | 25 | 形 | 14 | 器用 | 10 |
| 力 | 23 | 作品 | 14 | 色々 | 10 |
| イメージ | 19 | 豊か | 14 | 制作 | 10 |
| ハサミ | 19 | 興味 | 13 | 遊び | 10 |
| 活動 | 19 | 使い方 | 13 | | |
| 大切 | 19 | 身 | 13 | | |

表14

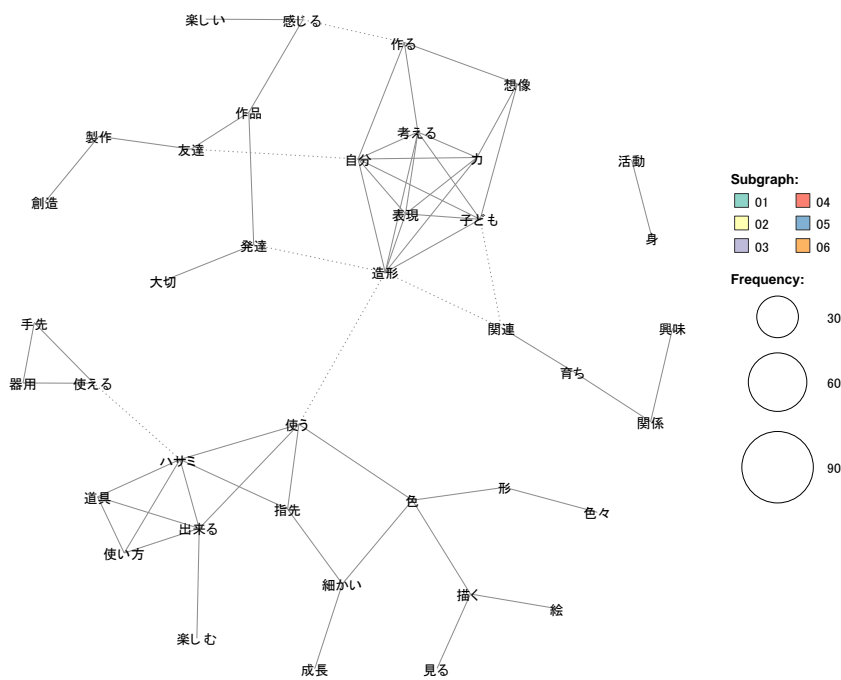


図5

調査項目 15、「造形表現において、児童期の子どもへの育ちに関連があると思うことを100字程度で書いてください。」

(出現回数10以上)

| 抽出語 | 出現回数 | 抽出語 | 出現回数 | 抽出語 | 出現回数 |
|-----|------|------|------|-----|------|
| 自分 | 119 | 製作 | 18 | 幼児 | 12 |
| 表現 | 100 | 道具 | 18 | 自然 | 11 |
| 児童 | 63 | 大切 | 17 | 意欲 | 10 |
| 造形 | 58 | イメージ | 16 | 育ち | 10 |
| 想像 | 33 | 様々 | 16 | 関連 | 10 |
| 友達 | 33 | 協力 | 14 | 作業 | 10 |
| 子ども | 31 | 形 | 14 | 周り | 10 |
| 力 | 30 | 工夫 | 14 | 動物 | 10 |
| 作品 | 25 | 制作 | 14 | 発達 | 10 |
| 身 | 22 | ハサミ | 13 | | |
| 活動 | 19 | 幅 | 12 | | |

(表 15)

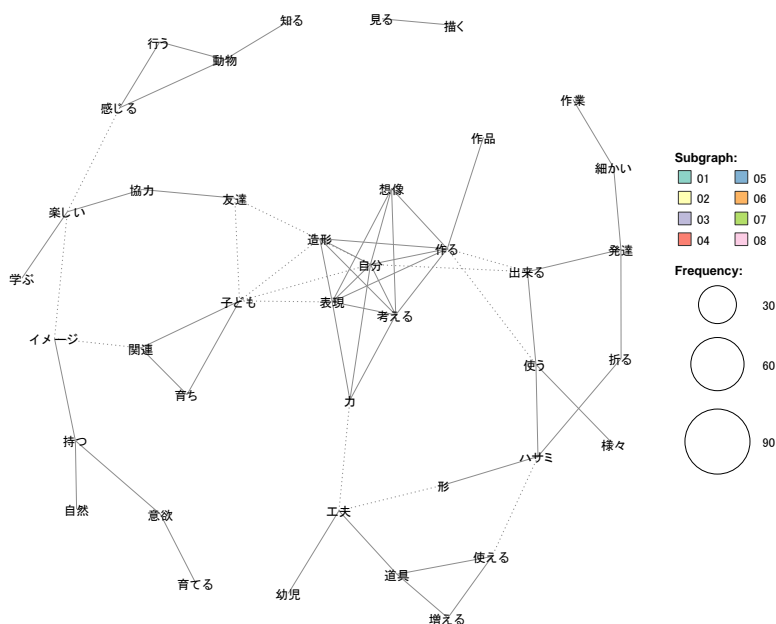


図 6

(2) 考察

1. 「学生が持つ造形表現のイメージと子ども育ちとの関わりのイメージ」について

調査項目 1 での回答上位 5 項目は、「クレヨン」「画用紙」「折り紙」「絵の具」「はさみ」である(表 1)。「クレヨンや絵の具を使用して画用紙に描く」ということや「折り紙をする」「はさみを使って工作をする」などが考えられる。概ね造形表現の代表的な素材や道具である。これらを使用し、調査項目 2 (乳児)、5 (幼児)、8 (児童) では学生がどのような活動内容を考えているかを見ていきたい。

1-1. 調査項目 2 (乳児) での抽出上位語は「画用紙」「新聞紙」「手型」「絵の具」「クレヨン」である(表 2)。図 1 の関係性において、画用紙に絵を描く、絵の具を使ってスタンプ (手型など) をする、新聞紙を丸めたり、破いたりする、といった活動を考えていること読み取れる。具体性を持った形を作るというよりは、触覚的な「手型スタンプ」「新聞紙を破く、丸める」のような乳児の発達の段階において無理がない、かつ身体の発達を促すような活動を想定していることがわかる。

1-2. 調査項目 5 (幼児) での抽出語上位は「画用紙」「絵」「クレヨン」「絵の具」「新聞紙」である(表 5)。図 2 には「絵を描く」ことに加え、さらに「作る」という語、「季節」と関係した「製作」や「けん玉」「箱」「牛乳パック」「ストロー」など工作で必要とするものの単語が見られる。乳児よりも、より具体的なものを「自分」で製作する姿を考えていることが読み取れる。

1-3. 調査項目 8 (児童) での抽出上位語は「画用紙」「絵の具」「自分」「絵」「折り紙」である。注目すべきは調査項目の上位ではないが「自分」という語の回答が増えていることである。調査項目 2 では出現回数は 5 に満たないため回答数は示していない。調査項目 5 での出現回数は 9 であり項目 8 では 25 まで増えている。また、図 3 では「好き」を中心に「描く」「切る」「貼る」が関係している。

以上 1.1-1~1-3 を踏まえ、調査項目 13、14、15 の回答よりそれぞれ得られた図 4、図 5、図 6 から、学生の活動の理解の現状を考えていきたい。

調査項目 13、14、15 で抽出された図から、学生の理解を俯瞰してみると、保育者 (実習生や保育士、教師) と子どもとの関わりの方が見えてくるようである。

図 4 では「造形」「発達」を中心に「手」「指先」「感覚」の名詞の結びつきが強くみられる。さら

にそこには「感じる」「触れる」「知る」「見る」「遊ぶ」などの動詞が関連している。何か限定的なものを制作するというよりは「造形」の行為が「指先」や「手」、「感覚」などの「発達」と関係していると捉えているようであり、子どもの育ちに合わせて素材と関わっていく姿をイメージしているようである。

図5では「表現」「自分」「考える」「想像」といった語が関係し合いながら「色」「形」「道具」「使い方」などのイメージを造形的に具体化する手立てを表す語が関係してきている。さらに「発達」「友達」という語が関係していくことで造形表現をするための技術の獲得に加えて、社会との関わりといった心身の育ちについてもイメージがあることがわかる。

図6では「自分」「表現」「考える」「作る」「想像」の結びつきが強く、図5同様「友達」のほか「協力」「工夫」といった語を見ることができる。

以上の学生の造形活動のイメージの全体像から、乳児期は保育者の援助とともに心身の発達を促す活動があり、幼児期には社会性の発達とともに子ども自身が中心に行うことが増え、児童期にはより「自分」が主体的に活動に関わり成長していこうとする姿を想定していることがわかる。さらに調査項目12において、98%の学生が、子どもが「自分の思うままに、かいたりつくったりすることができる」ことが造形表現を通して期待される姿であると回答している。

2. 「学生が持つ造形表現のイメージと実習、実習事前指導などの授業の関係」について

2-1. 調査項目2に対応する調査項目3(表3)では約65%の学生が、自分が持つ造形活動のイメージは実習や実習事前指導などの授業での学びであると回答している。「いいえ」を選択している35%のおよそ半数56%の学生は調査項目4(表4)において、参考書や保育誌、アプリやインターネットの情報を活用していることがわかる。アルバイトやボランティアでの学びは17%である。

2-2. 調査項目5に対応する調査項目6(表6)では約69%の学生が、自分が持つ造形活動のイメージは実習や実習事前指導などの授業での学びであると回答している。「いいえ」を選択している31%のうち、調査項目7(表7)において、およそ半数以上66%の学生は参考書や保育誌、アプリやインターネットの情報を活用している。アルバイトやボランティアでの学びは12%である。

2-3. 調査項目8に対応する調査項目9(表9)では約44%の学生が、自分が持つ造形活動のイメージは実習や実習事前指導などの授業での学びであると回答している。この項目において、実習や授業において得られるものではないとする「いいえ」を選択しているのは半数以上の56%の学生である。このうち調査項目10(表10)において54%の学生は「短大入学前までの経験や学び」を選択している。アルバイトやボランティアでの学びといった回答はなかった。

2-4. 調査項目11では実習に参加することで理解が深まったと回答する学生は96%となった。

以上2.2-1~2-4より、学生が持つ造形表現のイメージと実習や事前指導などの授業の関係の現状を考えていきたい。

2-1, 2-2共に7割弱の学生が学内での実習に向けた授業や実際の実習から活動の理解を進めていることがわかる。また、そこでは補えないことについては参考書や保育誌、アプリやインターネットのメディア等の情報を活用し、知識としていることがわかる。アルバイトやボランティアでの学びはとしている学生は1割程度である。造形表現の活動イメージは約8割程度が大学での専門的な学びや実習、またはアルバイト、ボランティアの実体験をしながら理解を進めていることが理解できる。さらに調査項目11により、学生自身が理解を深めるために、実習という実体験が有効的なものだという認識をしている様子がわかる。

しかしながら、2-3において、児童期の活動の理解について実習や事前指導などの授業で生まれ

ているとは言い難い結果が出た。表9で「いいえ」と回答した内の半数以上の学生の回答は、「短大入学前までの経験や学び」を選択している。これは学生自身の児童期の経験を回答したことを表しているのではないだろうか。これは学内での学びにおいて児童期の学習が不足していることを示唆するものである。執筆者（小口）が担当する「造形表現（指導法）」や実習指導においても、児童期の内容に触れはするが、基本的には乳幼児期についての内容が中心である。また、アンケート回答者は保育実習については保育実習Ⅰのみしか経験していない。そのため、乳児期から幼児期への保育の流れや連続性についての意識はあったのかもしれないが、幼児期から児童期への成長の連続性への意識は希薄だったに違いない。

（3）まとめと課題

アンケート調査により、学生の造形表現に対するイメージの現状が明らかとなった。責任実習や部分実習につながっていく可能性のある造形表現の活動イメージは、（2）考察1.から、学生は大きな流れを捉えることができているといえる。今後は現状を踏まえた上で、回答に出てくるイメージをより具体化して指導案等に反映できるような指導を行うことが課題である。また、（2）考察2.より、学生の乳幼児期にかけての学びについては、子どもの成長の連続性の意識を持って学ぶことができていると言えるが、児童期への成長の流れを理解した上で幼児期を捉えるということについて学ぶことができているとは言い難い。とはいえ、児童期における造形表現については学生自身の経験から大まかなもののイメージは持っているといえる。また、学生の乳幼児期の成長の流れへの知識や理解は、卒業までにその他の授業からより強くなると予想できる。このことからすると、乳幼児期の造形表現が、児童期以降どのように変容していくのかを知ることは、乳幼児期の造形活動のさらなる知識と理解の深まりをもたらすのではないだろうか。だからこそ今後の学生指導においては児童期の内容についてもさらに手厚く触れていく必要があると考える。しかし、これについて保育実習Ⅱに参加することがどの程度学生の理解に寄与するかは不明であり、それぞれの実習施設においても差異が出てくるであろう。だからこそ、実体験である実習を通した内容理解のプロセスについてとそこで生まれる保育における造形表現のイメージの変容に着目することで、さらなる実習事前事後指導の内容充実を図っていきたいと考える。

引用・参考文献

- 1) 汐見稔幸・武藤隆(2018)「<平成30年施行>保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント」
- 2) 文部科学省. 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 図画工作編
[https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_008.pdf\(2020/10/1 確認\)](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_008.pdf(2020/10/1%20確認))
- 3) 中村三緒子(2017)「幼稚園教育要領領域「表現」の変遷に関する考察 — 小学校学習指導要領の影響を通して —」淑徳大学短期大学部研究紀要第57号
- 4) 小口偉(2017)「A 保育園での造形表現活動からの一考察—「見守る保育」における制作コーナーで生まれる表現から—」日本美術教育研究論集第50号 101-108
- 5) 横井紘子(2007)「幼小連携における「接続期」の創造と展開」お茶の水女子大学子ども発達教育研究センター紀要 (4), 45-52